

令和7年度 東京都立日野台高等学校 学校経営計画

1 目指す学校像（スクール・ミッション）【期待される社会的役割】

「叡知・情操・健康」を教育目標とし、高い次元での文武両道を実践し、生徒自らが計画を立て、自らを律して最後まで粘り強く頑張り通す、挑戦心と実行力を育成します。

- (1) 進学指導推進校として、本校及び本校生徒に期待される学校像・生徒像を常に目指し、教育活動において生徒一人一人を本当に大切にできる学校
- (2) 生徒と教員の信頼関係に基づき、主体的・対話的で深い学びを通して、教科等に対する興味・関心を喚起する授業を行い、学校行事・生徒会活動・部活動が生徒の主体性により行われる学校
- (3) 教職員が常に自己の専門教科や担当業務等に関する研鑽を怠らず、業務遂行に当たっては互いに情報を共有し助け合って、よりよい学校づくりに励むことのできる学校
- (4) 生徒の進路希望を学校全体で支援して、その実現を図るとともに、生徒・保護者・教職員・地域の人々が誇りにできる学校

2 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー【指導要領で育成を目指す資質・能力】

教育活動において、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む姿勢を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す工夫した教育の充実に努める。

(2) カリキュラム・ポリシー【教育課程の編成及び実施】

知力・徳力・体力のバランスの取れた教育の充実を図る。具体的には次の5つの資質・能力「①基礎・基本の定着②自律的な学び③探究する態度④文武両道⑤規範意識」を育成し「挑戦する心」と「実行する態度」を持つ生徒に育てる。これによって、より高い進路目標の実現に向け、学習と学校行事・部活動を、高いレベルで両立できる文武両道を目指す。学習においては、自分の目標とする難関大学等を目指す。

(3) アドミッション・ポリシー【本校の期待する生徒の姿】

- ① 意欲的に学習に取り組み、教科の成績が優れている生徒
- ② 難関大学進学等の目的意識をもち、入学後もその実現に向け継続的に努力できる生徒
- ③ 部活動、生徒会活動、奉仕活動のいずれかに熱心に参加し、入学後も継続的な行動ができる生徒
- ④ 社会生活を円滑に送るためのマナーを身に付けており、中学校3年間の出席状況が良好な生徒

3 中期的目標と方策

(1) 学習指導の充実

「進学指導推進校」として都民に期待される進学実績を一層向上させる。そのために授業改善を目的とした校内研修会等を行い、授業の質の向上を図るとともに、補習・講習の充実、家庭学習の充実を図る。

授業での一人1台端末の活用を推進し、より一層の授業の工夫・効率化を図る。

(2) 進路指導の充実

キャリア教育の全体計画を策定し、その充実を図るとともに、これまで蓄積したデータに基づく3年間を見通した指導を実践する。

教科主任会を充実させ、各教科の課題や模試の分析結果等を共有し、生徒の大学進学に向けた希望進路実現をより強化していく。

進学指導推進校として、国公立大学進学希望者への指導を丁寧で粘り強く継続的に行い、中期・後期受験を見据えた最後まであきらめさせない指導を実践する。

(3) 生活指導の充実

「日野台生活スタンダード」を様々な場面で生徒に提示し、生徒会が中心になり、生徒自らが生活を律することができるようにする。また、活発に行われている学校行事・部活動を維持発展させ、心身の練磨を図るとともに、SNSの適切な利用等時間を有効活用する能力を育成し、けじめのある学校生活を送らせる指導を徹底する。

(4) 広報活動の充実

本校の特色ある教育活動について、最新の情報をホームページやパンフレット等で積極的に提供する。また、学校や学習塾での説明会を行う等、広く効果的な広報活動を行う。

(5) 環境・安全・健康に配慮した教育の展開

生徒の心身の健康及び体力の向上を促進させるための環境整備を図る。学校生活の安全確保に配慮した学校生活の送り方について適切に指導する。

防災教育では、地域や関係機関と連携し、生徒とともに企画立案し災害発生時の体制を整備する。

(6) 特色ある教育の展開

教科、総合的な探究の時間(Tokyo-IBLハイスクール)、特別活動において、国際教育(海外学校間交流推進校)、東京2020レガシー教育、防災教育に関連する指導を展開するとともに、グローバル化の進展に伴い、海外帰国生受入校、GE-NET EE(Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education)校として、より専門的かつ継続的な活動を実施する。

また、高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)として、今後のデジタル化の推進に向け、教育課程再編やDX化の充実を図る。

4 今年度の取組目標と方策

新学習指導要領の全学年完成年度後の次の段階に向け、進学指導推進校、GE-NET EE校、海外学校間交流校、Tokyo-IBLハイスクールとして、生徒の希望進路実現に向けた質の高い授業・教育活動に取り組み、生徒に「挑む心(挑戦心)」を醸成し、「考えて主体的に実行する」態度を育成する。

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導

目 標	方 策
・大学入学共通テスト、国公立大二次試験、難関私立大入試の得点力向上	・教科や進路指導部で、共通テスト、二次、難関大の入試問題を幅広く深く研究し、授業で思考力・判断力・表現力を問う発問をし、小テスト、定期考査等に反映させる。定期考査では論理的思考力、表現力を高めるため、記述・論述問題を出题する。
・教科指導力の向上	・教科会で、授業進度を調整し、教材の共有化を図り、定期考査の共通化を図る。 ・様々な変化に対応し、学校として一貫性のある授業計画を立て実践する。
・学力向上と定着	・自宅学習定着のため、予習・復習、日々の課題、週末課題を課す。 ・予習を前提とした授業を行う。 ・教科、学年、部活動顧問が連携し、学習時間を確保する。 ・自習室、図書室、学習コーナー等を利用し、自主的に学習する習慣を身に

	付けさせる。居残り自主学習は午後7時までとする。 ・夏期・冬期・春期講習、普段の補習・講習等を教科の意思統一のもとに実施する。 ・共通テスト、国公立大二次、難関私大の出題傾向を踏まえ、新たな学習教材、学習方法を研究・活用する。 ・ICTを活用した授業の推進に取り組み、一人1台端末活用の促進を図り、進学指導推進校として質の高い授業を展開し、ロイロノート等を活用した授業の工夫・効率化を図る。 ・学力上位層をさらに伸ばす指導、学力下位層を引き上げる指導の充実を図る。
・授業改善を推進 考える授業を展開	・授業での深い問いかけ、考えさせる発問、話し合い活動等で、主体的・対話的な授業を実践する。 ・教員相互の授業参観、研究授業、授業公開を行う。教科横断型の授業を試行する。また、進学指導推進校として授業を公開する。 ・1時間ごとの授業のねらいを明確にし、生徒にとって、見通しのもてる授業、考えさせる授業に取り組む。 ・総合的な探究の時間、人間と社会の趣旨を共有して取り組む。総合的な探究の時間では、SDGs等を基本コンセプトに、日野市・青年会議所等とも連携し、生徒が成果をクラス、学年で発表する。 ・進学指導推進校として、一人1台端末活用に向けた授業実践に積極的に取り組み、教科内で共有し、授業改善につなげていく。
・デジタル技術を活用した教育の推進	・生徒の学ぶ意欲に応え、その力を最大限に伸ばすためのトータルツールとして、教育のICT化を推進する。 ・ICTを活用して、一人ひとりの理解度や進度に応じて個別最適化された学びや生徒同士の主体的・対話的な学びなどを実現し、「知識習得型」から「価値創造・課題解決型」の学びへとつなげていく。
・授業時間確保	・すべての授業でチャイム始業を徹底する。 ・土曜授業は年20回行い、学習、部活動、行事を充実させる。
・充実した学校図書館教育	・学校図書館としての「読書センター」・「学習センター」・「情報センター」としての機能を充実させる。 ・推薦図書紹介、図書館だより、SDGsに関する選書などに取り組む。計画的・継続的な読書活動を勧める。 ・図書委員会を活用した地域への絵本読み聞かせ、ブックサンタ等の取組を推進する。

② 進路指導

目 標	方 策
・進路指導の充実	・進路指導部と学年が連携し、年間を通して学年ごとの適時様々な説明会を開き、キャリア教育の充実を図る。 ・キャリア教育を通し、将来の生き方、在り方等を考えさせる。 ・外部人材を、自習支援、取出、図書館居残り学習等で活用し、個々の生徒に応じた指導を実践する。
・組織的な進路指導	・進路指導部が進路データを一元管理し、進路指導部と学年・各教科が連携した指導を行う。 ・生徒の希望進路実現のため、進路指導部が中心となり、ケース会議、模擬試験分析会、進路行事の充実を図り、教職員全体で進路指導情報を共有する。 ・「3年間の進路指導の流れ」・「3年間面談例」を踏まえ、面接指導（二者及び三者）の充実を図る。 ・保護者対象の進路学習会の充実を図る。 ・教科会・教科主任会の活性化を図り、教科での共通テスト分析や模試分析を積極的に行い、学力向上を補完し、進学対策を推進する。
・進路自己決定支援	・進学指導推進校として、高い目標をもたせ、最後まであきらめさせない進路指導を行う。進路通信「挑戦者たちへ」を発行し、学年集会、保護者会、学校説明会、さくら連絡網等を活用して情報を提供し、国公立大、難関大等を目指させる。 ・模擬試験の振り返りを学年集会等で行い、課題を全員で共有させ、進学に

	必要な力を身に付けさせる。 自主的な学習教材として、全学年導入しているクラッシーの活用を推奨し、希望大学進学実現への手立てとする。
--	--

③ 生活指導

目 標	方 策
・ 基本的な生活習慣確立	- 挨拶する、時間を守る、制服を正しく着用する、校内・校外でのマナー意識の醸成等、基本的な生活習慣の指導を行う。ホームルームにおける生活指導を充実する。特に遅刻の減少に向けた校内での取り組みを行う。 「日野台生活スタンダード」を定着させる。特に、「地域に愛される」取組を行い、地域や社会に貢献する意識を育む。 - 下校時間を守らせ、勉強・部活動・学校行事の切り替えを日常的に指導する。 - 交通安全等のセーフティ教室を開催し、登下校の交通マナー、特に自転車の乗り方については指導を徹底するとともに、ヘルメット着用の指導を徹底する。また、盗難防止の指導も行う。 - SNS日野台ルールの徹底に取り組む。スマホをオンライン学習、健康観察等に有効活用するよう指導する。
・ 生徒の健全育成	- あらゆる機会をとらえ、生命の尊重と自己肯定感を高めさせ、信頼できる人間関係をつくり、いじめや体罰の根絶に取り組む。学校生活や友人に関するアンケートを活用する。 「日野台生活スタンダード」で提唱する「思いやり」の心を育む。 - 総合的な探究の時間、教科「人間と社会」、様々な地域交流活動を通し、地域、社会と関わり、自己肯定感、キャリア意識を高める。 - セーフティ教室、薬物乱用防止教室、人権尊重教育等を実施する。 - ボランティア活動を推進し、部活動等を中心とした地域清掃等の取組を実践する。
・ 校内美化	- 清掃活動を充実させ、生徒にゴミの分別を日常的に行わせ、教室内や廊下などの美化に日常的に努めさせる。 - 季節に応じた環境の維持に努め、様々な感染症対策に対応していく。

④ 広報活動

目 標	方 策
・ 組織的な学校PR活動	- 全校体制で広報活動を展開する。 - 本校に入学を希望する中学生・保護者に学校説明会等の機会を用意する。 - 授業公開を年3回実施する。 - 学校案内・ポスターの充実を図り、分かりやすく丁寧な説明を行う。 - ホームページの適正管理・充実に努め、最新の学校情報の発信、提供ができるように、適宜更新する。 - 可能な範囲で近隣中学校や進学塾での広報活動を行う。 - PTAとの連携を充実させ、PTAと協力しながらの広報活動を展開する。

⑤ 特別活動・部活動

目 標	方 策
・ 企画力や運営力を育成	- 合唱祭や体育祭、常磐樹祭(文化祭)等の学校行事を充実させ、自主性・創造性・協調性を伸長させる支援を行う。 - これまで本校で培ってきた伝統行事が引き継がれるよう、また、新たな工夫が組み込まれるよう充実を図る。
・ 体力の向上	高いレベルの文武両道を目指し、部活動加入を推奨し、充実した活動が行われるようにする。部活動で、地域、近隣小中学校学、高校等との連携を図る。
・ 安全指導の実施	- 様々な活動で、事故や怪我の防止・対応に取り組む。 - 新入生への安全指導の徹底を図る。 - 部活動など様々な場面で、安全・安心な学校づくりに取り組む。

⑥ 環境・健康・安全

目 標	方 策
・心と身体の健康づくり	・家庭や地域と連携して健康教育を推進し、健康、安全、環境、食育等に対する意識を高め、自らの健康を保持・増進させる態度を育てるとともに、体力向上に向けた意識を培う。 ・生徒の心身の状況を共有し、適切な指導に取り組み、生徒理解のための研修に取り組む。 ・スクールカウンセラーと連携し、教育相談の充実に取り組む。保健部を中心に相談日時を調整する。また、新たに教育相談会議を開催し、生徒のさまざまな問題や課題を教職員で共有しながら対応していく。 ・校内での流行に応じた様々な感染症への未然防止の啓発に努める。 ・不登校・発達障害等の特別支援教育については、特別支援教育コーディネーターを中心に生徒の目線に立った支援をスクールカウンセラーや外部機関と連携して行う。
・省エネ推進	・節電、節水、CO₂削減など、環境保全や省エネルギーに努める。 ・生徒が省エネを意識した取組を行えるよう、指導を強化する。
・ライフ・ワーク・バランスを推進	・学校における働き方改革推進プランに基づき部活動指導員等を活用する。 ・学校閉庁日の年休等取得を推進し、休暇取得促進ウィーク、定時退庁ウィーク等を活用する。 ・夏休の完全取得、年休の取得率向上を推進する。 ・男性の育休取得を推奨する。

⑦ 経営企画室

目 標	方 策
・積極的に学校経営参画	・学校経営支援センターとの連携を強化し、適正な予算執行を実施する。 ・自立経営予算等の適正執行・適正管理に努める。 ・一般需用費のセンター割合を高める。
・学習環境の維持	・施設設備の情報収集・点検・対応を行う。 ・教室換気のための冷暖房管理に留意する。 ・学校用務専門員との連携を図り、環境整備に努める。

⑧ 特色ある教育活動

目 標	方 策
・新学習指導要領に応じた教育課程の実施	・本校グランドデザインやカリキュラム・ポリシーに基づき、新学習指導要領を実施し、大学入学共通テスト、難関私大等の受験科目等に対応した教育課程を実施する。 ・教科会を充実させ、カリキュラム・マネジメントの実践に取り組む。
・主権者教育や消費者教育の充実	・公民科授業やHRで主権者教育の充実、家庭科授業やHRで消費者教育の充実を図る。 ・東京都・日野市選挙管理委員会と連携し、選挙関連の講演会・体験学習を実施する。
・グローバル化の進展に向けた海外学校間交流の推進	・海外学校間交流や国際理解教育講演会を可能な限り実施する。 ・海外短期交流として、希望生徒を中心に夏季休業中に海外研修ツアーを実施する。
・グローバル化の進展に向けた英語教育の推進	・GE-NET EE校として、英語力の向上に努め、4技能（聞く、話す、読む、書く）の伸長を図る。 ・JETを活用した放課後部活動の充実を図る。 ・英語外部検定を英語力向上、大学受験での活用につなげる。 ・日常の教育活動で海外帰国生が活躍できる場面をつくる。
・海外帰国生受入校として、グローバル化の進展に対応した国際教育の充実	・海外帰国生受入校として、現代の国語・言語文化・数学Ⅰ・数学Aの取り出し授業を行う。また、日本語指導・数学補習・自主学習支援などをはじめとした学習支援や個別面談・SC面談など個に応じたメンタルケアも実施していく。 ・海外帰国生交流会・海外帰国生保護者会等を通じて帰国生同士の交流を深めるとともに、国際教育の一環として文化祭などにおいて、校内外の生徒交流をはじめ、グローバル社会に向けての情報発信を行う。

・学校2020レガシー教育の推進	・共生・共助社会の実現に必要な「ボランティアマインド」「豊かな国際感覚」の育成など、学校2020レガシー教育に取り組む。
・芸術・伝統文化教育の推進	・芸術鑑賞教室を通じて、芸術性の高い作品を鑑賞し、感性を養い、芸術への理解を深め、人間形成に役立てる ・音楽や合唱に取り組む際の参考とし、文化祭・合唱祭の芸術性・専門性を高めるための一助とする。 ・日本の伝統文化の良さを理解し発信できる生徒、互いの文化を尊重した交流ができる生徒の育成を図る。
・主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の推進	・各教科において学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」）をバランスよく確実に伸長させ、主体的・対話的な深い学びの実現に取り組む。 ・深い対話があり、考えさせる主体的な授業を実践する。
・地域等と連携した防災教育推進	・自治会、日野市等と連携し、避難所設営等共助の防災訓練に取り組む。 ・防災訓練と合わせ計4回、火災・震災等を想定した避難訓練を行う。
・学校評価の一層の活用	・学校評価をより学校経営に反映させ、地域社会との連携を深め、開かれた学校づくりの推進に努める。
・オンライン教育の充実	・一人1台端末を活用し、課題設定力、仮説を立てる力、論理的に説明する力、明確な結論を導き表現する力を育成する。 ・適宜ICTを活用し、授業、行事、部活動など様々な場面で活用する方法を研究し、実践する。B Y O D (Bring Your Own Device)、C Y O D (Choose Your Own Device)の実践に取り組む。
・高等学校D X加速化推進事業の推進	・デジタル等の成長分野を支える人材育成するため、I C Tを活用した教科横断的・探究的な学びを推進し、適正な予算計画に基づき、計画を実施し、教育実践に繋げていく。

(2) 重点目標と方策

① 「難関大学への合格実績等」

大学入学共通テスト出願者300名以上、6教科8科目の受験者130名以上となるよう、生徒を励まし、最後まで諦めさせない指導を継続する。現役国公立大学合格100名以上（うち難関国公立大5名以上）、早慶上理大60名以上、GMARCH大300名以上の合格者数を目指した指導を行う。

② 「学校生活の充実度」

学校評価アンケートにおいて、回収率を90%以上とし、全項目で肯定的回答が80%を越えるよう、分掌・学年・教科・部活動顧問が連携して学校生活の充実に取り組む。「高いレベルでの文武両道」の教育活動を推進する。

③ 「家庭学習の時間」

1、2年生で、家庭学習2時間以上の生徒が50%以上となるよう、課題の提示、隙間時間の有効活用、居残り学習等を促す。

④ 「学校PR活動」

オープンスクール、学校説明会等を広報し、参加者数4000名以上（文化祭入場者数含む）、入学者選抜一次募集最終応募倍率1.5倍以上となるように努める。ホームページを中心に効果的な学校PR活動を推進する。